とうきょう　すくわくプログラム

2024年度活動報告書

中板橋雲母保育園

テーマ【　　観　察　　】

設定した理由・背景

空に雲が浮かぶ様子、公園で見つけた葉の色など、身近な自然に興味を持つ姿から、観察を通してより興味や好奇心を引き出したいと思ったため。

用意した環境設定

スマートフォン、SDカード、ケース、ストラップ、スクリーン、マイクロスコープ、拡大鏡、スケールルーペ

活動のあゆみ

１月：自然探索を活動に多く取り入れ、身近な自然にはどんなものがあるのかを知っていく

２月：保育者に虫眼鏡の使い方を聞きながら、興味を持ったもの（石、葉、木など）を自由に観察してみる

３月：室内にある物も観察する。デジタル顕微鏡を使い、自分の手や米を拡大、観察する

❀探究活動の実績❀

①戸外活動で自然物に興味を持つ姿が見られ、石や落ち葉を集める様子があったことから、自然物や身近な物をより深く探究する「観察」をテーマに決めた。
子どもが見つけた石や落ち葉などを「どんな色に見える？」「どんな形に見える？」と自分の目で観察してみるよう問いかけ、そこから虫眼鏡やデジタル顕微鏡を用いた観察の探究活動を始めた。

↓

②虫眼鏡の使い方を覚えると、自分から石を拾ってきて観察したり、保育者が例として提示していない物にも虫眼鏡を向けて観察し始める姿が見られた。子どもの好奇心を尊重し、見たい物を自由に観察して楽しめるようにした。
室内でも玩具、服、壁などを観察し、デジタル顕微鏡で玄米と白米を拡大して見比べてみると、色の違いに気付き、玄米を「トマトみたい」と自分の言葉で表現する子どももいた。０歳児クラスも１．２歳児の活動の様子を興味深く眺めたり、モニターに映る物を指差す姿が見られた。

↓

③目で見ただけでは分からない色や形が隠れている事を知り、「大きかった」「しましまだった」など、楽しかった気持ちや感じた事を保育者や保護者に伝えていた。

デジタル顕微鏡を使い、玄米と白米を観察して比べてみた時の様子

自由に観察してみる時間に、自分の靴下を選んで虫眼鏡で覗く様子

まとめ

普段見ている物が、道具を用いる事でまた違って見え、どの子どもも非常に興味を持っていた。予想よりも子どもが自主的に参加している姿が多く、自園で預かっている年齢に適したテーマで活動出来たように感じた。戸外では観察対象を細かく指定せず、子どもが興味を持った物を見つけるようにした事で、自主性を引き出す事が出来た。次年度は、より年齢に応じた取り組みの工夫が出来るよう模索していきたい。